

税 申告書 (年分・平成〇〇年〇月〇日 事業年度分・) に係る

平成△△年△月△日

税理士法第33条の2第1項に規定する添付書面

33の2①

		※整理番号	
税理士又は 税理士法人	氏名又は名称	税理士 国税 太郎 ⑩	
	事務所の所在地	東京都千代田区霞ヶ関〇-〇-〇 電話 (03) 〇〇〇〇 - 〇〇〇〇	
書面作成に 係る税理士	氏 名	税理士 国税 太郎 ⑩	
	事務所の所在地	東京都千代田区霞ヶ関〇-〇-〇 電話 (03) 〇〇〇〇 - 〇〇〇〇	
	所属税理士会等	東京 税理士会 〇〇 支部 登録番号 第 〇〇〇〇〇号	
税務代理権限証書の提出		有 () ・ 無	
依 頼 者	氏名又は名称	株式会社 〇〇商事 代表取締役 〇〇 一郎	
	住所又は事務所の所在地	東京都千代田区霞ヶ関〇-〇-〇 電話 (03) 〇〇〇〇 - 〇〇〇〇	
私 (当法人) が申告書の作成に関し、計算し、整理し、又は相談に応じた事項は、下記の1から4に掲げる事項であります。			
1 自ら作成記入した帳簿書類に記載されている事項			
帳簿書類の名称		作成記入の基礎となった書類等	
なし 毎日の取引に関する記帳は納税者が行い、その記帳内容の正確性については毎月の監査を行って確認している。		なし なお、原始記録、契約書等の整理保存状況も良好である。	
2 提示を受けた帳簿書類 (備考欄の帳簿書類を除く。) に記載されている事項			
帳簿書類の名称		備 考	
①仕訳帳②現金出納帳③総勘定元帳④現金残高内訳表⑤当座勘定照合表⑥普通預金通帳⑦預金残高証明書⑧棚卸明細表⑨借入金残高証明書⑩売掛金管理表⑪買掛金管理表⑫給与台帳⑬労働保険料申告書 (控)		なお、左記提示を受けた帳簿書類については、「書類範囲証明書」を作成し、事務所に備置している。	
※事務 処理欄	部門	業種	
	意見聴取連絡事績		事前通知等事績
	年月日	税理士名	通知年月日 予定年月日
	・	・	・

3 計算し、整理した主な事項		
区 分	事 項	備 考
(1) 租税公課、還付法人税等	損金の額に算入した納税充当金、利子割額、所得税額、還付法人税等の金額について、法人税申告書別表五（二）を記載し、それぞれの所得金額に加減算した。	租税公課の内訳書、雑益等の内訳書。
貸倒引当金	法人税申告書別表十一（一の二）の記載、繰入限度超過額はなし。	貸借対照表、勘定科目内訳明細書、債権からの控除割合計算表。
退職給与引当金	法人税申告書別表十一（三）を記載、当期の取崩不足額を所得金額に加算するとともに、決算書期末退職給与引当金勘定の当期増加額を所得金額に加算した。	貸借対照表、退職給与引当金要支給額の計算表。
交際費等	支出交際費等の額につき他の勘定科目についても検討、問題のないことを確認し、法人税申告書別表十五を記載、損金不算入額を所得金額に加算した。	仕訳帳、総勘定元帳、請求書、領収書、損益計算書
(1)のうち顕著な増減事項		増 減 理 由
①売上高の減少 〇〇〇千円	① 得意先量販店に新規出店が無く、既存店売上先の減少に加えて青果物相場が低迷したため。	<p>交際費の増加について、税理士が理由等を検討確認していることから、調査省略等の参考となる。</p> <p>前期損益修正損の増加理由の記載があり、税理士が検討・確認していることから調査省略等の参考となる。</p>
②商品仕入高の減少 〇〇〇千円	② 売上高の減少に伴うもの。	
③発送配達費の減少 〇〇〇千円	③ 外部委託の配送業務を削減、従業員の自家用車での配送割合を高めた。	
④販売員給与の減少 〇〇〇千円	④ 支給延べ人員が減少	
⑤厚生費の減少 〇〇〇千円	⑤ 社保・労保保険料、通勤手当、雑用金の減少	
⑥支払利息の減少 〇〇〇千円	⑥ 銀行借入金〇〇〇千円の削減	
(2) ⑦前期損益修正損の増加 〇〇〇千円	⑦ レジャークラブ入会金の譲渡損失〇〇〇千円 退職給与引当金の繰入不足額〇〇〇千円	
⑧雑収入の増加 〇〇〇千円	⑧ 松茸加工手数料〇〇〇千円	
⑨接待交際費の増加 〇〇〇千円	⑨ 新規販路獲得に係る飲食費・ゴルフ費の増加	
⑩通信交通費の増加 〇〇〇千円	⑩ 従業員による自家用車配送割合の増加に伴う支出額の増加	
⑪退職金等の増加 〇〇〇千円	⑪ 従業員退職給与引当金の当期要支給額計上額が〇〇〇千円増加	
⑫保険料の増加 〇〇〇千円	⑫ 自動車損害保険料支出額が〇〇〇千円増加	
(3) (1)のうち会計処理方法に変更等があった事項	変 更 等 の 理 由	
該当なし		

4 相談に応じた事項	
事 項	相 談 の 要 旨
該当なし	
5 その他	
<p>1 当社の概要</p> <p>昭和〇〇年〇月〇日、公設卸売市場〇〇〇〇の開設に伴って、同市場の指定青果物仲卸売事業を営む有限会社△△△△として、設立。3回の増資により、資本金を〇〇〇万円とし、株式会社へ組織変更して現在に至る。</p> <p>当社は、営業損益で収支トントン、元卸会社から交付される仕入割戻金額分(営業外損益に計上)を経常利益にそのまま残せるような会社運営を最低限の目標として日々の営業に努めている。法人会の会員であり、代表取締役〇〇〇〇は、事業熱心、税務に対する理解認識が高い。</p> <p>経理については、総務経理部長〇〇××(代表取締役の妻)が担当し自社電算機により売掛金・買掛金管理表、在庫一覧表を作成している。</p> <p>(有)□□□□は、当社販路拡大のために設立された青果物の小売業を営む関係会社である。</p> <p>2 当期の営業成績の概要</p> <p>得意先量販店に新規出店が無く、納め取引先の既存店売上高も減少、関係会社(有)□□□□の一部店舗撤退に基づく売上高の減少に加えて青果物相場が低迷したため、売上高が〇〇〇千円(〇%)減少した。売上高の減少をカバーすべく利益率の確保に努め、売上総利益率が〇%と上昇したものの売上総利益の額は〇〇〇千円減少した。けれども、販管費(〇〇〇千円)を圧縮し、営業損益では対前年比〇〇〇千円の増益となった。経常利益についても雑収入が〇〇〇千円増加、支払利息〇〇〇千円削減により、〇〇〇千円を計上することができた。</p>	

顕著な増減事項及び総合評価等が詳細に記載されており、税理士による監査が十分に行えていることが伺えることから調査省略等の参考となる。